

婚男性と既婚子なし男性の得点が次に高く、既婚子なし女性と未婚女性の得点が最も低かった。

以上の結果から、子育ては自分を成長させてくれると考えているのは、実際に子どもを持ち育てるという経験をしている人であることがわかった。また、子どもに対して自分の分身だと考えたり何でもさせてあげたいと考えるような、子どもへの思い入れが大きいのは、既婚の子あり男性で、同じ既婚子ありでも女性はその意識は低くなることがわかった。また、未婚女性と既婚子なし女性は、どちらの考え方についても低い評価しかしておらず、厳しい子育て観を持っていると考えられた。

表 6-1-2 グループ別”子育て観”の因子得点

		平均値	標準偏差
未婚男性	自分の成長	-0.08	0.99
	子どもへの献身	0.01	0.85
既婚子なし男性	自分の成長	-0.16	0.97
	子どもへの献身	-0.02	0.88
既婚子あり男性	自分の成長	0.38	0.77
	子どもへの献身	0.38	0.76
未婚女性	自分の成長	-0.23	0.94
	子どもへの献身	-0.25	0.85
既婚子なし女性	自分の成長	-0.20	0.87
	子どもへの献身	-0.21	0.79
既婚子あり女性	自分の成長	0.32	0.73
	子どもへの献身	0.10	0.81

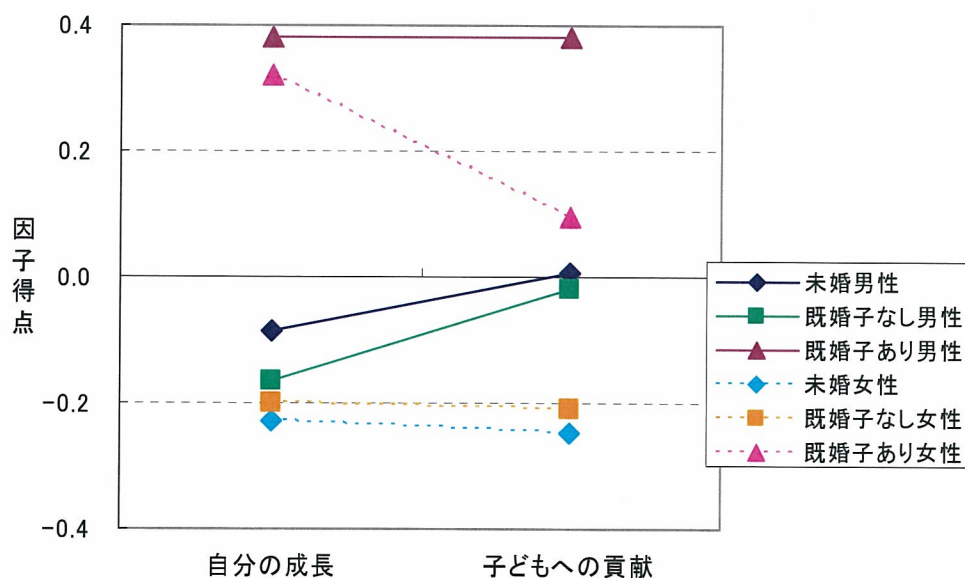


図6-1-1 子育て観

6-2. 育児担当者についての考え方 (Q22)

子育てをどのように行おうと考えているかについて調べるため「子育てに関する性別役割」についての16項目を準備し(Q22)4件法で回答を求めた。以上のデータを用い因子分析(主因子法, バリマックス回転)を行い, 固有値や内容のまとまりを考慮した結果, 2因子を抽出した(表6-2-1)。第1因子は「父親は外で働き母親が育児の責任を持つのが自然だ」などの項目が含まれているため「子育ては母親」因子と命名した。第2因子は「子育ては夫婦2人が同じくらい関わるべきである」などの項目が含まれているため「子育ては両親」因子と命名した。

表6-2-1 ”子育てに関する性別役割”についての考え方 因子分析結果

	子育ては母親	子育ては両親
父親は外で働き母親が育児の責任を持つのが自然だ	0.814	-0.104
女性の一番重要な仕事は, 家族を守り子どもを育てることである	0.791	-0.034
職業の有無に関わらず, 家事や育児は女性の役割・責任である	0.758	-0.164
子どもが3歳くらいになるまでは母親は育児に専念すべきである	0.687	0.028
父親が仕事のために育児や子どものことに手がまわらないのはやむを得ない	0.625	-0.179
父親の出番は子どもがある程度大きくなってからだ	0.563	-0.199
子どもの世話や教育は, 父親は母親にはかなわない	0.535	-0.037
母性愛は女性の持つ本能だ	0.528	0.165
父親も積極的に育児に参加するべきだ	-0.101	0.822
子育ては夫婦2人が同じくらい関わるべきである	-0.103	0.770
妻が仕事を持っている場合には, 夫も家事を平等に分担するべきだ	-0.076	0.735
父親にとっても, 仕事と育児は同等の重みを持つ	-0.057	0.727
男性も, 育児休業をとるなど育児を配慮した働き方を考えるべきだ	-0.054	0.650
母親が仕事をしていても, 愛情豊かでしっかりした親子関係を築くことができる	-0.089	0.561
家事や育児を妻任せにする男性は, 人生の大切なものを失っている	0.045	0.526
父親だけでも子どもを立派に育てることができる	-0.034	0.374
寄与率(%)	22.826	22.692
累積寄与率(%)	22.826	45.518

それぞれの因子ごとに因子得点を算出し, 性別, 婚姻形態, 子どもの有無で分けた回答者6グループ(未婚男性/既婚子なし男性/既婚子あり男性/未婚女性/既婚子なし女性/既婚子あり女性)ごとに平均値と標準偏差を出した結果を, 表6-2-2, 図6-2-1に示した。

各因子得点について, グループ間に得点の差があるかについて, 1元配置の分散分析を行った結果, すべての因子得点で有意な差がみられた(子育ては母親: $F(5, 3921)=631.10, p<.0001$, 子育ては両親: $F(5, 3921)=19.75, p<.0001$)。Scheffe法による多重比較の結果, 「子育ては母親」因子得点については, 既婚子あり男性の得点が最も高く, 次いで既婚子あり女性と未婚男性と既婚子なし男性の得点が高く, 未婚女性と既婚子なし女性の得点が最も低かった。「子育て

は両親」因子得点については、女性 3 グループの得点が最も高く、次いで既婚子あり男性が高く、未婚男性と既婚子なし男性の得点は最も低かった。

以上の結果から、男性と女性では、子育てに関する性別役割についての考え方が全く異なっており、男性は母親が子育てを担当した方がいいと考えており、女性は両親で子育てをした方がいいと考えていることがわかった。

表 6-2-2 グループ別”子育てに関する性別役割についての考え方”因子得点

グループ	因子名	平均値	標準偏差
未婚男性	育児は母親	0.05	0.98
	育児は両親	-0.17	1.00
既婚子なし男性	育児は母親	0.01	0.97
	育児は両親	-0.17	1.01
既婚子あり男性	育児は母親	0.31	0.90
	育児は両親	-0.05	0.85
未婚女性	育児は母親	-0.27	0.93
	育児は両親	0.10	0.98
既婚子なし女性	育児は母親	-0.16	0.90
	育児は両親	0.07	0.86
既婚子あり女性	育児は母親	0.06	0.85
	育児は両親	0.24	0.84

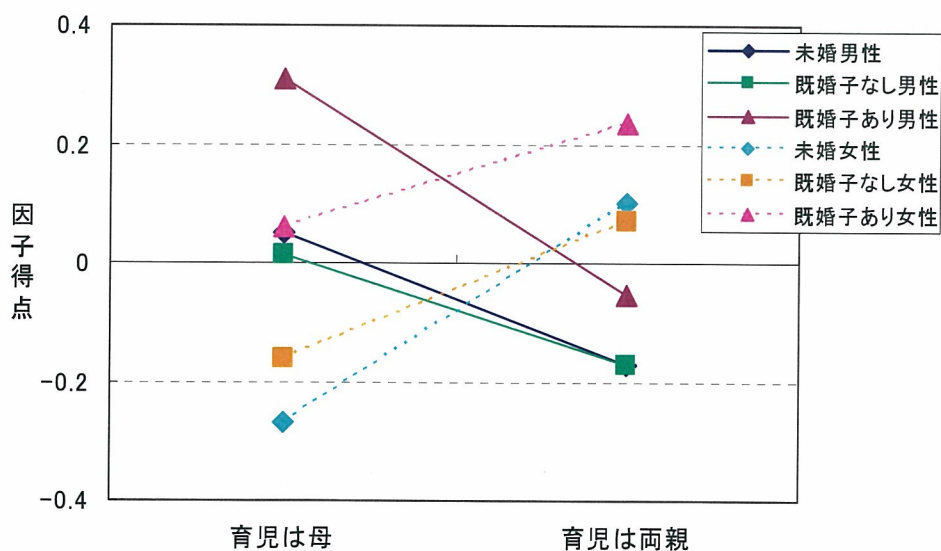


図6-2-1.子育てに関する性別役割についての考え方

7. 育児休業制度についての考え方

育児休業制度の利用について、人々がどのように考えているかについて分析を行った。

7-1. 育児休業制度の利用についての考え方 (Q25)

育児休業制度への意識を調べるため「育児休業制度の利用」について11項目を準備し(Q25)4件法で回答を求めた。以上のデータを用い因子分析(主因子法,バリマックス回転)を行い,固有値や内容のまとまりを考慮した結果,2因子を抽出した(表7-1-1)。第1因子は「ある程度の給料の補償がないので,利用しづらい」などの項目が含まれているため「利用環境の悪さ」因子と命名した。第2因子は「仕事への責任があるので,育児休業制度を利用したくない」などの項目が含まれているため「利用意思のなさ」因子と命名した。

表7-1-1 育児休業制度の利用についての考え方 因子分析結果

	利用環境	利用意思
ある程度の給料の補償がないので、利用しづらい	0.782	0.054
職場では育児休業制度をとりにくい雰囲気がある	0.666	0.227
育児休業制度を利用すると収入が減って家計が苦しくなる	0.654	0.145
周囲の人が取らないので、育児休業制度を利用しにくい	0.648	0.329
育児休業制度を利用すると、昇進に不利になる	0.604	0.287
育児休業制度を利用すると職場での居場所がなくなる	0.595	0.393
現在の仕事が忙しくて、育児休業制度を利用することは不可能である	0.504	0.414
育児休業制度を利用すると、仕事のブランクのため能力が落ちる	0.443	0.399
仕事への責任があるので、育児休業制度を利用したくない	0.301	0.688
育児休業制度を利用すると職場の人に迷惑がかかる	0.424	0.512
妻が育児をするため、夫が育児休業制度をとる必要はない	0.021	0.483
寄与率(%)	30.376	15.626
累積寄与率(%)	30.376	46.001

それぞれの因子ごとに因子得点を算出し,性別,婚姻形態,子どもの有無で分けた回答者6グループ(未婚男性/既婚子なし男性/既婚子あり男性/未婚女性/既婚子なし女性/既婚子あり女性)ごとに平均値と標準偏差を出した結果を,表7-1-2,図7-1-1に示した。

各因子得点について,グループ間に得点の差があるかについて,1元配置の分散分析を行った結果,すべての因子得点で有意な差がみられた(利用環境の悪さ:F(5,3921)=9.60,p<.0001,利用意思のなさ:F(5,3921)=11.67,p<.0001)。Sceffe法による多重比較の結果,「利用環境の悪さ」因子得点については,既婚子あり男性が一番高く,ついで既婚子あり女性と既婚子なし男女が高く,未婚男女は最も低かった。「利用意思のなさ」因子得点についても同様に,既婚子あ

り男性が一番高く、ついで既婚子あり女性と既婚子なし男女が高く、未婚男女は最も低かった。

制度の利用環境と本人の取得意思については得点に差がなかったことから、男性の育児休業制度の利用が低いのは、どちらか一方の要因によるものではなく、両方の要因が関わっていることがわかった。男性の中でも、実際に子どもがいて利用すべき状況に直面している人ほど、利用環境が整っていないと考える一方で自身の利用意思もないことから、環境が整っていないことを理由に子育てに主体的に関わることから目をそむけている可能性もあると考えられた。

表 7-1-2 グループ別”育児休業制度についての考え方”因子得点

グループ	因子名	平均値	標準偏差
未婚男性	利用環境	-0.11	0.97
	利用意思	-0.12	0.93
既婚子なし男性	利用環境	0.04	1.00
	利用意思	0.03	0.92
既婚子あり男性	利用環境	0.18	0.95
	利用意思	0.20	0.88
未婚女性	利用環境	-0.11	0.90
	利用意思	-0.12	0.83
既婚子なし女性	利用環境	-0.04	0.92
	利用意思	-0.02	0.88
既婚子あり女性	利用環境	0.06	0.86
	利用意思	0.03	0.79

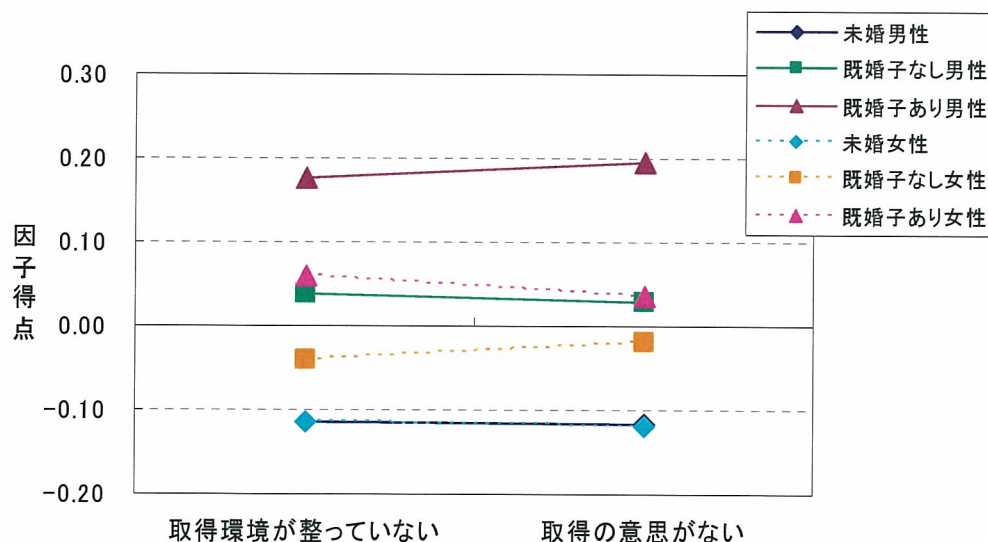


図 7-1-1 育児休業制度についての考え方：グループ別

7-2. 有給休暇の取得状況と育児休業制度利用についての考え方(Q29)

育児休業制度利用の意識の一側面として、「利用環境の悪さ」があがったが、育児休業制度を利用しづらい環境なのは、育児休業制度が浸透していないためだろうか。あるいは日頃から休暇をとりづらい労働環境なのであろうか。

日ごろの労働環境が育児休業制度の利用と関連があるかについて検討するため、有給休暇の取得状況(Q29)によって、育児休業制度の利用についての考え方に違いがあるか分析を行った。

まず、「Q29 あなたは有給休暇を取得することができますか」という設問への回答から、十分に取得しているグループ(883名)、あまり取得できていないグループ(1146名)、全く取得できていないグループ(426名)、有給休暇制度がないグループ(562名)の4グループにわけた。次に育児休業制度利用の考え方の「利用環境悪さ」因子得点と「利用意思のなさ」因子得点について、4つのグループごとに平均点と標準偏差を算出した(表7-2-1, 図7-2-1)。

各因子得点について、グループ間に得点の差があるかについて、1元配置の分散分析を行った結果、すべての因子得点で有意な差がみられた(利用環境:F(3, 3076)=46.1, $p<.0001$, 利用意思:F(3, 3076)=37.9, $p<.0001$)。

Sceffe法による多重比較の結果、「利用環境の悪さ」「利用意思のなさ」の両方ともに、有給休暇が全く取得できていないグループの得点が一番高く、次にあまり取得できていないグループの得点が高く、次に有給休暇制度がないグループとなり、十分に取得できているグループの得点が最も低かった。

以上の結果から、日ごろから有給休暇をとりやすい職場環境であれば、育児休業制度の利用についても利用しやすいと考え、利用の意思も高まることがわかった。有給休暇がない職場環境の場合は、育児休業制度の利用についても有給休暇制度についても、現状では環境が整っていないが、制度を整えば取得したいという希望があるのではないかと考えられた。有給休暇が制度としてあっても、また、取りづらい環境の職場では、実際に利用する意欲を低下させるということが明らかになった。つまり、育児休業制度の実際の利用につなげるには、育児休業制度を整えるだけでなく、有給休暇の取得のような日常的な労働者の権利の行使を阻害しないような職場環境作りが重要であると言えるだろう。

表 7-2-1 有給休暇の取得状況別”育児休業制度についての考え方”因子得点

有給休暇の取得状況	因子名	平均値	標準偏差
十分に取得している	利用環境	-0.24	0.96
	利用意思	-0.18	0.88
あまり取得できていない	利用環境	0.11	0.90
	利用意思	0.12	0.85
全く取得できていない	利用環境	0.35	0.96
	利用意思	0.30	0.92
有給休暇制度がない	利用環境	-0.04	0.93
	利用意思	-0.10	0.89

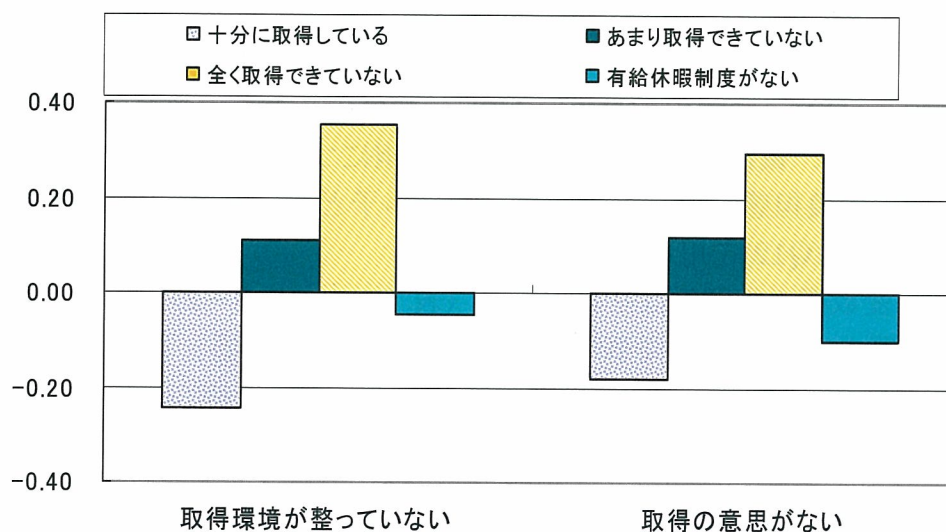


図7-2-1 育児休業制度についての考え方:
有給取得状況別

8. 子育ての負担と欲しい子どもの数との関連について

理想の数の子どもがもてない理由として、経済的負担があがることが多い。また家事・育児と仕事との両立が難しいことから、2人目以上の子どもをもつことを断念するカップルもいる。子どもの数の減少への影響要因として、労力的・経済的子育ての負担は大きいのであろうか。

男性と女性の、子どもを育てていく上での労力的・経済的な実際の負担、それにもなっていると感じる子育ての負担感と、欲しい子どもの人数の関連について分析を行った。

子育てにおける実際の負担として、「本人の週平均労働時間 (Q5sq3)」「配偶者の週平均労働時間 (Q9sq4-1)」「本人の週の家事・育児従事時間(Q31)」「昨年の個人年収(Q5sq5)」「昨年の世帯年収(Q8)」「昨年の子どもの教育費(Q10sq3)」の6変数を用いた。負担感として、子育ての負担についての7項目(Q23A)を合計し、「子育ての負担感」として用いた。欲しい子どもの数は、「実際に持つと思う子どもの数」(Q12)を用いた。

男女別に各変数間の相関係数を算出した(表8-1, 表8-2)。その結果、男性の場合、「週の家事・育児従事時間」と「子育ての負担感」に弱い負の相関($r < -.07$)があり、「週の家事・育児従事時間」と「実際に持つと思う子どもの数」には弱い正の相関($r < .11$)があり、さらに「子育ての負担感」と「実際に持つと思う子どもの数」に弱い負の相関($r < -.13$)が見られた。

以上のことから男性の場合は、家事育児に従事していないほど子育ての負担感を感じており、また子育ての負担感を感じているほど実際に持つと思う子どもの数が少ないことがわかった。逆にいうと、実は男性が子育てにコミットするほど負担感は減り、多くの子どもを持つとうと思うということである。一般に子育ては女性に向いているように考えられているが、男性も実際に子育てに関われば、負担を感じるのではなく、充実感を得たり子育てを楽しんだりできるため、子どもを持つとうという動機づけが促進されると言えるだろう。

女性の場合、「配偶者の週平均労働時間」と「子育ての負担感」に弱い正の相関($r < .07$)があり、「昨年の子どもの教育費」と「子育ての負担感」に負の相関($r < -.13$)が見られた。また、「本人の週平均労働時間」と「実際に持つと思う子どもの数」に弱い負の相関($r < -.08$)、「週の家事・育児時間」と「実際に持つと思う子どもの数」に正の相関($r < .30$)、「個人年収」と「実際に持つと思う子どもの数」に負の相関($r < -.17$)、「世帯年収」と「実際に持つと思う子どもの数」に弱い負の相関($r < -.06$)、そして、「子育ての負担感」と「実際に持つと思う子どもの数」に負の相関($r < -.13$)が見られた。

女性の場合、子育ての負担感に影響が強いのは、配偶者の労働時間であることがわかった。これは、配偶者が長く働くほど、女性ひとりに子育ての負担がかかるためであると考えられる。逆に男性は、配偶者の労働時間と子育ての負担感に関連は見られず、配偶者が有職者であっても専業主婦であっても、男性の育児へのかかわりは負担に感じるほどではない、つまり育児に関与する程度は妻の就労に関わらず低いということを示している。

また女性の「実際に持つと思う子どもの数」に関しては、労働時間が長いほど少なくなり、家事時間が長いほど多くなった。この結果を解釈するにあたっては、女性の就労状況が正規職員や契約社員、パート、専業主婦などさまざまであることを考慮する必要がある。女性は労働時間が長くなっても、家事育児時間が短くはならない。このため、正規雇用や契約社員など比較的労働時間の長い女性は、多くの子どもを育てられるとは思えないのではないだろうか。一方女性の中でも家事時間が長いのは専業主婦であると考えられるが、もともと子育てや家事が生活の中心であることから、ある程度の子どもの数は持とうと思っているのだと考えられる。

表 8-1. 育児に関する負担と負担感、子どもの数との関連（女性）

	週平均の労働時間	配偶者の週平均の労働時間	週の家事・育児従事時間	個人年収	世帯年収	教育費	子育ての負担感	実際に持つと思う子どもの数
あなたの週平均の労働時間は何時間ですか	1.00	0.46**	-0.15**	0.40**	0.07	0.03	0.05	-0.08*
あなたの配偶者の週平均の労働時間は何時間ですか		1.00	0.03	-0.03	0.06	0.06	0.07*	-0.01
あなたは1週間で、家事や育児を何時間くらい行っていますか			1.00	-0.17**	-0.08*	-0.17**	0.00	0.30**
あなた個人の昨年の年収はどれくらいですか				1.00	0.32**	0.00	0.04	-0.18**
あなたの世帯全体の昨年の年収はどれくらいですか					1.00	0.16**	0.01	-0.06*
あなたのご家庭では、昨年1年間に子どもの教育費(習い事も含む)にどれくらいかかりましたか						1.00	-0.13**	0.03
子育ての負担感							1.00	-0.13**
あなたが実際に持つと思う子どもの数は何人ですか								1.00

表 8-2. 育児に関する負担と負担感、子どもの数との関連（男性）

	週平均の労働時間	配偶者の週平均の労働時間	週の家事・育児従事時間	個人年収	世帯年収	教育費	子育ての負担感	実際に持つと思う子どもの数
あなたの週平均の労働時間は何時間ですか	1.00	0.50**	0.03	0.13**	0.07**	0.00	0.03	-0.03
あなたの配偶者の週平均の労働時間は何時間ですか		1.00	0.06	0.01	0.12**	-0.03	0.06	-0.06
あなたは1週間で、家事や育児を何時間くらい行っていますか			1.00	0.03	-0.02	-0.14**	-0.07*	0.11*
あなた個人の昨年の年収はどれくらいですか				1.00	0.60**	0.13**	-0.05	-0.03
あなたの世帯全体の昨年の年収はどれくらいですか					1.00	0.10	-0.03	0.01
あなたのご家庭では、昨年1年間に子どもの教育費(習い事も含む)にどれくらいかかりましたか						1.00	-0.09	0.03
子育ての負担感							1.00	-0.13**
あなたが実際に持つと思う子どもの数は何人ですか								1.00

9. 育児・家事および労働時間の実態

9-1. 育児・家事に関する行動

家事や3歳までの子どもの育児をどの程度行っているかたずねた(Q30)。育児については、子どもがいる人のみを対象とし、すでに子どもが大きい場合は、過去の経験についてたずねることとした。

具体的には、家事については、(1)部屋の掃除、(2)洗濯(物干し・取入れ含む)、(3)炊事(食器洗い含む)についてたずねた。

また育児については、(4)風呂に入れる、(5)食事をさせる、(6)寝かしつけるについてたずねた。

これらそれぞれについて、「1 ほとんど自分でしない(0-20%未満)」「2 少しは自分です(20-40%未満)」「3 半分程度は自分です(40-60%未満)」「4 大体自分です(60-80%未満)」「5 すべて自分です(80-100%)」の中から回答してもらった結果を男女別に見たのが図9-1-1である。

家事及び育児の実際の行動に関して男女の違いは歴然である。すべての行動に関して、男女では大きくことなり、女性の場合は育児の「(4)風呂に入れる」を除いたすべての項目において、「すべて自分です」と回答した人が半分以上を占めており、「大体自分です」とあわせると、大体の家事育児を女性が主に担っていることが改めてわかる。

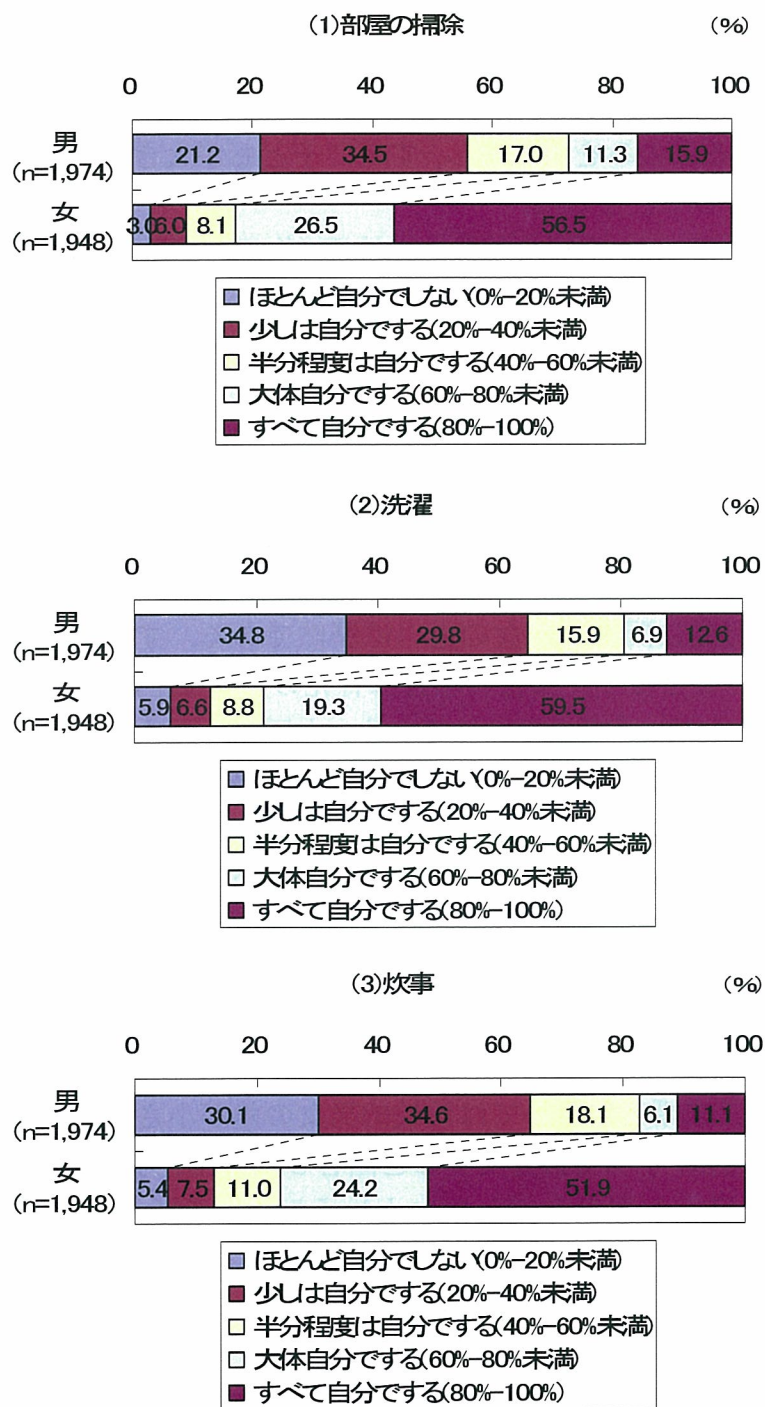
ただし、唯一育児の「(4)風呂に入れる」については、依然として女性の方が行っている割合は高いが、男性も行っているという結果となっており、育児の入浴が男性の役割として定着しつつある可能性を示している。

続いて、家事(部屋の掃除、洗濯、炊事)について、婚姻状態・子どもの有無別に見ると(表9-1-1)、未婚者については比較的男女の差が小さいことがわかる。例えば、炊事については、すべて自分ですと回答したのは、男性29.8%、女性31.7%である。またほとんど自分でしないという回答の割合も、男性は27.6%に対して女性は15.3%いた。

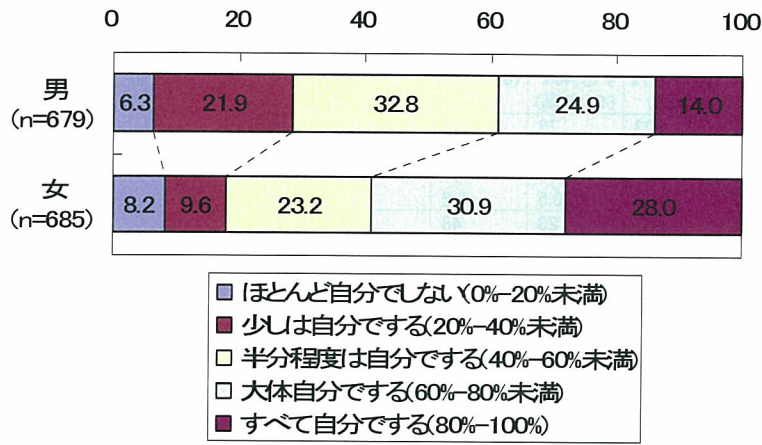
しかしながら、有配偶者(既婚子無し、既婚子有り)になると、男女差が広がる。炊事についてみると、既婚子無しについては、すべて自分とすると回答した男性は1.7%、女性は55.8%となる。またほとんど自分でしないについての解答も既婚子無しの男性は29.5%、女性は1.1%となっている。この傾向は既婚子有りにより顕著な傾向である。

婚姻関係を結んだ後、家事が女性の役割となり、子どもができるとその傾向がより顕著となることが改めてわかる。

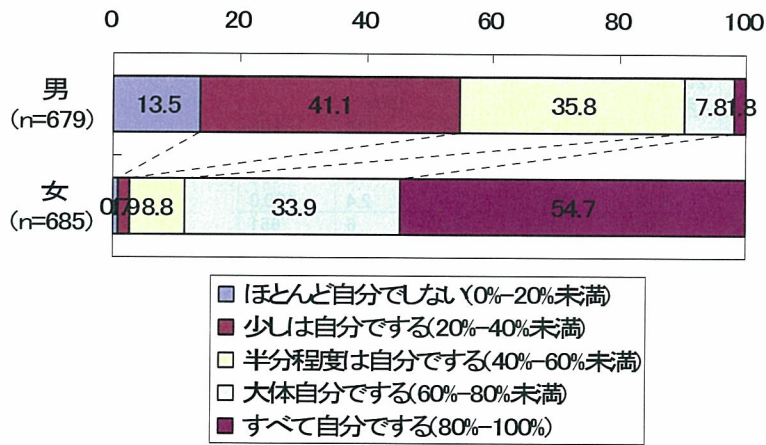
図 9-1-1 育児・家事の実際の負担の程度（男女別）



(4)風呂に入れる (%)



(5)食事をさせる (%)



(6)寝かしつける (%)

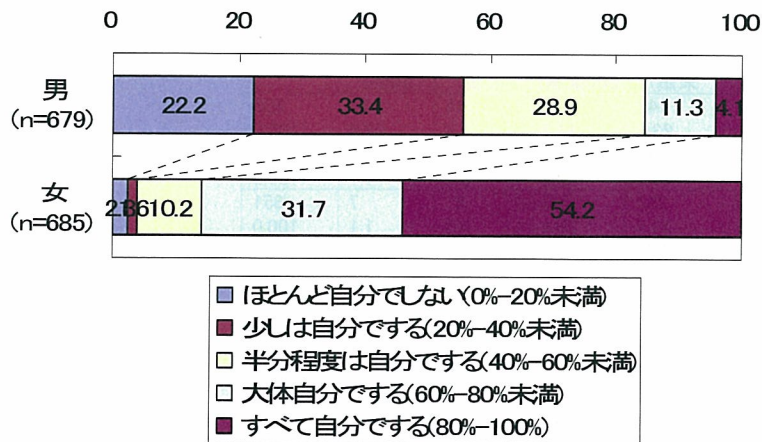


表 9-1-1 家事・育児（性別、婚姻状態・子どもの有無別）

(1) 部屋の掃除

			ほとんど自分でしない(0%-20%未満)	少しは自分でする(20%-40%未満)	半分程度は自分でする(40%-60%未満)	大体自分でする(60%-80%未満)	すべて自分でする(80%-100%)	合計
男	未婚者	度数	58	102	73	103	269	605
		%	9.6	16.9	12.1	17.0	44.5	100.0
	既婚子無	度数	193	258	135	61	13	660
		%	29.2	39.1	20.5	9.2	2.0	100.0
	既婚子有	度数	162	307	123	48	11	651
%	24.9	47.2	18.9	7.4	1.7	100.0		
合計	度数	413	667	331	212	293	1,916	
%	21.6	34.8	17.3	11.1	15.3	100.0		
女	未婚者	度数	38	67	51	121	297	574
		%	6.6	11.7	8.9	21.1	51.7	100.0
	既婚子無	度数	9	29	66	198	357	659
		%	1.4	4.4	10.0	30.0	54.2	100.0
	既婚子有	度数	9	16	38	175	393	631
%	1.4	2.5	6.0	27.7	62.3	100.0		
合計	度数	56	112	155	494	1,047	1,864	
%	3.0	6.0	8.3	26.5	56.2	100.0		

(2)洗濯(物干し・取入れ含む)

			ほとんど自分でしない(0%-20%未満)	少しは自分でする(20%-40%未満)	半分程度は自分でする(40%-60%未満)	大体自分でする(60%-80%未満)	すべて自分でする(80%-100%)	合計
男	未婚者	度数	190	116	56	38	205	605
		%	31.4	19.2	9.3	6.3	33.9	100.0
	既婚子無	度数	242	219	136	47	16	660
		%	36.7	33.2	20.6	7.1	2.4	100.0
	既婚子有	度数	242	242	118	43	6	651
%	37.2	37.2	18.1	6.6	0.9	100.0		
合計	度数	674	577	310	128	227	1,916	
%	35.2	30.1	16.2	6.7	11.8	100.0		
女	未婚者	度数	96	105	89	64	220	574
		%	16.7	18.3	15.5	11.1	38.3	100.0
	既婚子無	度数	8	11	53	155	432	659
		%	1.2	1.7	8.0	23.5	65.6	100.0
	既婚子有	度数	5	8	27	138	453	631
%	0.8	1.3	4.3	21.9	71.8	100.0		
合計	度数	109	124	169	357	1,105	1,864	
%	5.8	6.7	9.1	19.2	59.3	100.0		

(3)炊事（食器洗いを含む）

			ほとんど自分でしない(0%-20%未満)	少しは自分でする(20%-40%未満)	半分程度は自分でする(40%-60%未満)	大体自分でする(60%-80%未満)	すべて自分でする(80%-100%)	合計
男	未婚者	度数	167	142	71	45	180	605
		%	27.6	23.5	11.7	7.4	29.8	100.0
	既婚子無	度数	195	269	147	38	11	660
		%	29.5	40.8	22.3	5.8	1.7	100.0
	既婚子有	度数	222	258	133	31	7	651
%	34.1	39.6	20.4	4.8	1.1	100.0		
合計	度数	584	669	351	114	198	1,916	
%	30.5	34.9	18.3	5.9	10.3	100.0		
女	未婚者	度数	88	120	106	78	182	574
		%	15.3	20.9	18.5	13.6	31.7	100.0
	既婚子無	度数	7	12	67	205	368	659
		%	1.1	1.8	10.2	31.1	55.8	100.0
	既婚子有	度数	5	10	34	168	414	631
%	0.8	1.6	5.4	26.6	65.6	100.0		
合計	度数	100	142	207	451	964	1,864	
%	5.4	7.6	11.1	24.2	51.7	100.0		

表 9-1-2 炊事（婚姻状況及び子どもの有無別，同居家族別，性別）

			ほとんど自分でしない(0%-20%未満)	少しは自分でする(20%-40%未満)	半分程度は自分でする(40%-60%未満)	大体自分でする(60%-80%未満)	すべて自分でする(80%-100%)	合計	
未婚者	本人のみ	男	度数 %	12 5.5	13 6.0	16 7.3	18 8.3	159 72.9	218 100.0
		女	度数 %		1 0.7	3 2.0	11 7.4	133 89.9	148 100.0
		合計	度数 %	12 3.3	14 3.8	19 5.2	29 7.9	292 79.8	366 100.0
	本人と親もしくはきょうだい、祖母	男	度数 %	152 41.4	118 32.2	54 14.7	24 6.5	19 5.2	367 100.0
		女	度数 %	84 21.2	115 29.0	100 25.2	59 14.9	39 9.8	397 100.0
		合計	度数 %	236 30.9	233 30.5	154 20.2	83 10.9	58 7.6	764 100.0
既婚子無し	本人と配偶者	男	度数 %	162 28.4	236 41.4	128 22.5	35 6.1	9 1.6	570 100.0
		女	度数 %	5 0.8	7 1.2	55 9.3	189 31.8	338 56.9	594 100.0
		合計	度数 %	167 14.3	243 20.9	183 15.7	224 19.2	347 29.8	1,164 100.0
	本人と配偶者と親	男	度数 %	27 39.7	28 41.2	10 14.7	2 2.9	1 1.5	68 100.0
		女	度数 %	1 2.1	3 6.3	10 20.8	11 22.9	23 47.9	48 100.0
		合計	度数 %	28 24.1	31 26.7	20 17.2	13 11.2	24 20.7	116 100.0
既婚子有り	本人と配偶者と子	男	度数 %	180 34.4	204 39.0	107 20.5	26 5.0	6 1.1	523 100.0
		女	度数 %	4 0.8	3 0.6	22 4.3	131 25.6	351 68.7	511 100.0
		合計	度数 %	184 17.8	207 20.0	129 12.5	157 15.2	357 34.5	1,034 100.0
	本人と配偶者と親	男	度数 %	33 35.5	41 44.1	17 18.3	1 1.1	1 1.1	93 100.0
		女	度数 %	1 1.1	6 6.3	9 9.5	29 30.5	50 52.6	95 100.0
		合計	度数 %	34 18.1	47 25.0	26 13.8	30 16.0	51 27.1	188 100.0

注：同居家族の種類のうち，合計が40以上のもののみ取り出した表である。

また，同居家族別に，家事の分担（ここでは炊事）を見ると（表 9-1-2），一人暮らしの未婚者については，男女とも家事を自分でやっている。一方で親等と同居している未婚者は負担の程度が小さい。特に男性はそれが顕著である。

既婚子無しについてみると，本人と配偶者の場合と，これに親が加わった場合を比べると，男性で「ほとんど自分でしない」という回答が多くなっている。

9-2. 労働時間・家事時間

現在就労している人に対して、1週間あたりの平均労働時間についてたずねた(Q5_sq3). その結果が(表 9-2-1)である. 1週間平均の労働時間は全体では 37.3 時間, 男性の場合は 42.2 時間, 女性の場合は 29.3 時間であった.

これをさらに、就業形態及び婚姻状態と子どもの有無別に見たのが、表 9-2-2 である.

まず、就業状態別に見ると、男性の場合は、正規の職員 43.3 時間、自営業主・家族従業者・内職 41.3 時間、派遣・嘱託 40.3 時間であり、パート・アルバイト以外の人々の労働時間は大きな差はない. 一方女性については、最も労働時間が長いのが、正規の職員 35.6 時間、次が派遣・嘱託 30.8 時間、自営業主・家族従業者・内職 26.5 時間がこれに続く. 男性と比べて女性については、就業状態別の労働時間の差が大きい.

続いて、婚姻状態と子どもの有無別に見ると、男性の場合は、既婚子無しが最も長く働いており(44.3 時間)、次に既婚子有り(42.0 時間)、未婚者(39.6 時間)の順となっている. 女性については、未婚者が最も働いており(32.1 時間)、既婚子無し(28.5 時間)、既婚子有り(24.4 時間)がこれに続く.

これらの組み合わせでみると、男性の場合、既婚子無しの正規の職員が最も長く働いている(44.8 時間). 女性の場合は、未婚の正規の職員が最も長く働いている(35.9 時間). どの就業状態であっても、女性の既婚子有りは未婚者や既婚子無しと比べて労働時間が短い、特に、パート・アルバイトや派遣・嘱託に関してその傾向が顕著である.

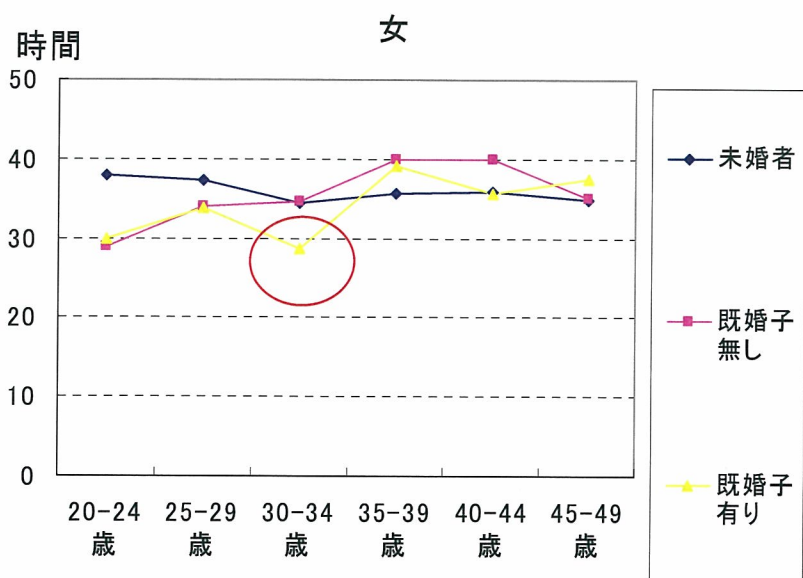
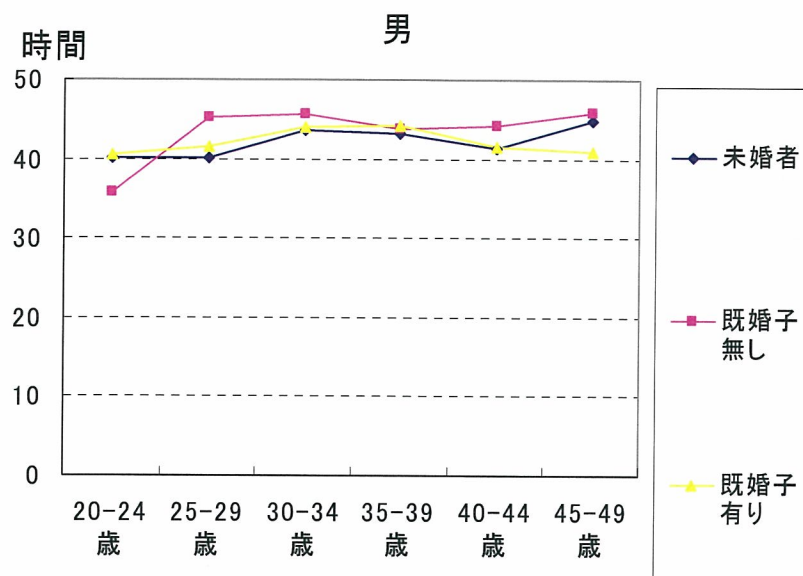
表 9-2-1 1週間あたりの平均労働時間(男女別)

	平均値	度数	標準偏差
男	42.2	1,768	17.99
女	29.3	1,059	16.34
合計	37.3	2,827	18.47

表 9-2-2 1週間あたりの平均労働時間(男女、就業状態、婚姻状態と子どもの有無別、)(単位:時間)

		未婚者	既婚子無し	既婚子有り	合計
男	正規の職員	42.4	44.8	42.3	43.3
	パート・アルバイト	24.9	26.0	32.9	25.8
	派遣・嘱託	41.0	38.5	41.5	40.3
	自営業主・家族従業者・内職	40.5	43.1	40.7	41.3
	合計	39.6	44.3	42.0	42.2
女	正規の職員	35.9	35.8	34.1	35.6
	パート・アルバイト	23.7	21.8	19.7	21.5
	派遣・嘱託	30.9	31.6	25.5	30.8
	自営業主・家族従業者・内職	26.7	27.1	25.5	26.5
	合計	32.1	28.5	24.4	29.3

図 9-2-1 1週間あたりの労働時間（性別，婚姻状態・子どもの有無別，年齢別）



続いて労働時間を，婚姻状態及び子どもの有無別かつ年齢別に見てみると，女性の既婚子有りについては，30－34歳の労働時間が小さい．この年齢階級の子どもを持っている女性の場合，たとえ働いていたとしてもその時間は短いことが明らかである．

今回の調査では，30歳代の既婚子有りの65.4%が職を持っておらず，就労そのものが多くはない点も付け加えておく．

次に、すべての対象者に対して、1週間あたりの平均家事・育児時間に尋ねた(Q31)。その結果が表 9-2-3 である。1週間の家事・育児時間は全体では、17.5時間、男性の場合は、7.8時間、女性の場合は27.5時間であった。

これを、婚姻状態・子どもの有無別及び就業状態別に図示したのが図 9-2-2 である。

これを見ると明らかなように、「既婚子有り」の家事・育児時間が非常に長いことがわかる。これは男女ともすべての就業形態において同様の傾向である。

正規の職員について着目してみると、その男女差は、未婚者 3.8時間(男性時間÷女性時間=56.2)、既婚子無しは 10.0時間(男性時間÷女性時間=32.1)、既婚子有りは 22.0時間(男性時間÷女性時間=35.7)となっている。未婚のとき、男性は家事・育児を女性と比べて 56.2%程度行っている。これが結婚して子どもがいない間には女性の 32.1%とその負担の差は大きくなる。子どもができると、家事・育児時間の差そのものは大きくなるが、男性正社員の女性に対する負担の程度は 35.7%となっており、若干上昇する。このように、正社員に限ってみれば、子どもができる前とできた後では、男女間の差は、絶対的には小さくなるが相対的には小さくなっている。

つづいて、女性の無職・家事の人々について見ると、特に既婚子有りの人々の育児・家事時間が 58.9時間と非常に長いことがわかる。1日平均で 8.4時間もの家事・育児を行っていることになり、こうした人々にとっては、「外で働く」といったことが選択肢として実現可能な事柄とはいいがたい。これは、子有り女性の中で最も家事時間の短い正規の職員の女性 34.3時間と比べると、24.6時間長いことになる。

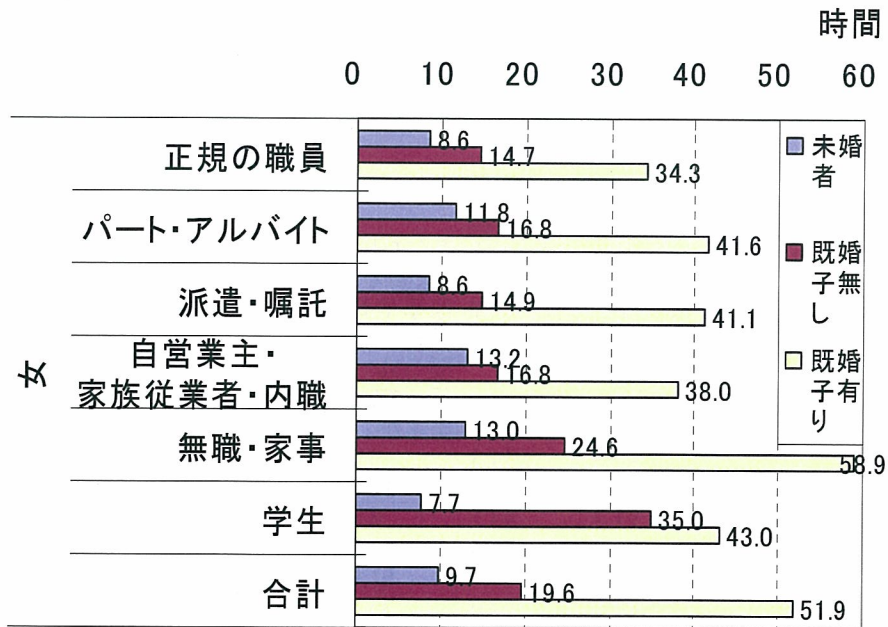
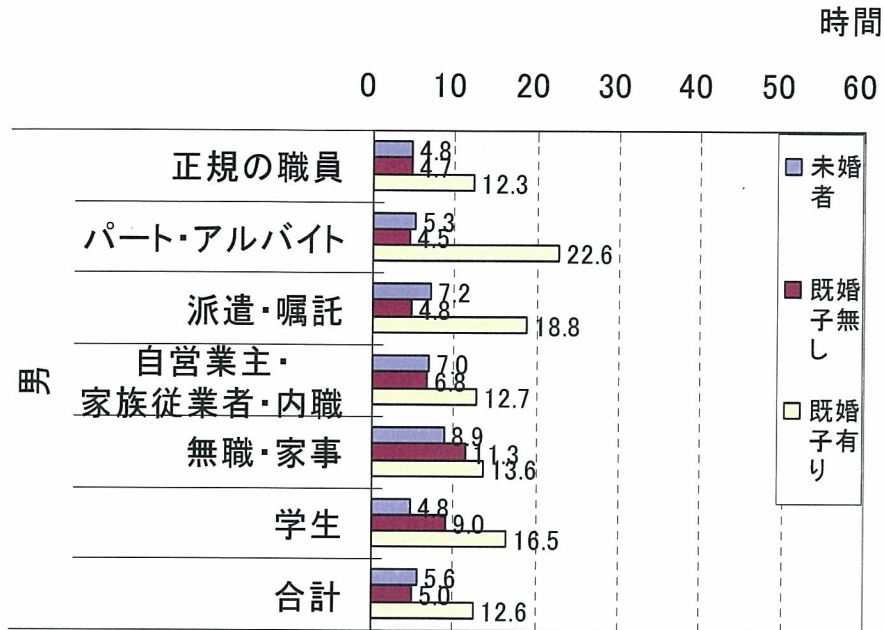
なぜ、こうした長い時間の家事・育児を行っているのか。あるいは長い時間の家事・育児を行う人が無職・家事という属性となっていると考えることも可能である。

いずれにせよ、家事の合理化と、家事の外部化、男性の家事分担という 3つの方策によるこの層の人々の家事時間の減少がない限り、子育て専業主婦女性の負担感の軽減にはつながらない。

表 9-2-3 1週間あたりの平均家事・育児時間(男女別)

	平均値	度数	標準偏差
男	7.8	1,916	8.92
女	27.5	1,864	28.79
合計	17.5	3,780	23.37

図 9-2-2 1週間あたりの家事・育児時間（性別、婚姻状態・子どもの有無別，就業状態別）



9-3. 総労働・家事時間

つづいて、労働時間と家事・育児時間を合わせてどの程度人々が行っているのか見てみよう。

全体では 45.7 時間、男性は 46.9 時間、女性は 44.5 時間であった（表 9-3-1）。

これを、さらに子どもの有無別に見たものが、表 9-3-2 である。既婚子無しと子有りを比べると、子どもがあるほうが、労働時間は短い、家事・育児時間が大幅に伸びることによって総労働・家事時間が長くなる。この傾向は男女両方に見られるが、特に女性において顕著である。

また、性別、子どもの有無別に、総労働・家事時間を見ると、子どものいる女性が最も長い結果となった。

表 9-3-1 総労働・家事時間（性別）

	平均時間			度数		
	労働・家事時間: Q5_sq3(労働時間)+Q31(家事時間)	あなたの週平均の労働時間は何時間ですか	あなたは1週間で、家事や育児を何時間くらい行っていますか。	労働・家事時間: Q5_sq3(労働時間)+Q31(家事時間)	あなたの週平均の労働時間は何時間ですか	あなたは1週間で、家事や育児を何時間くらい行っていますか。
男	46.9	42.3	7.9	1,974	1,819	1,974
女	44.5	29.7	27.2	1,948	1,135	1,948
合計	45.7	37.4	17.5	3,922	2,954	3,922

表 9-3-2

		平均時間			度数		
		労働・家事時間: Q5_sq3(労働時間)+Q31(家事時間)	あなたの週平均の労働時間は何時間ですか	あなたは1週間で、家事や育児を何時間くらい行っていますか。	労働・家事時間: Q5_sq3(労働時間)+Q31(家事時間)	あなたの週平均の労働時間は何時間ですか	あなたは1週間で、家事や育児を何時間くらい行っていますか。
男	既婚子無し	48.5	44.3	5.0	660	648	660
	既婚子有り	53.9	42.0	12.6	651	640	651
	合計	51.2	43.1	8.8	1,311	1,288	1,311
女	既婚子無し	35.8	28.5	19.6	659	374	659
	既婚子有り	60.4	24.4	51.9	631	219	631
	合計	47.8	27.0	35.4	1,290	593	1,290
合計	既婚子無し	42.2	38.5	12.3	1,319	1,022	1,319
	既婚子有り	57.1	37.5	32.0	1,282	859	1,282
	合計	49.5	38.0	22.0	2,601	1,881	2,601